

勝海舟顕彰会

勝海舟の銅像を建てる会は「勝海舟の銅像を顕彰する会」としてホームページを引き継ぎます。
勝海舟の銅像を建てる会趣意書はPDFで下記よりダウンロードできます。



勝海舟の銅像を建てる会オリジナルメンバー



久保雄三郎	板橋 秀幸	丸山 茂	橋本喜代治	坂田 秀男	安川 一郎	山崎晃区長	音頭 正治	嶋津 義行	小澤 将之	山田 実	中村 廣一	木内 禮智	廣田 健史	北村日出夫	保科 修
欠席 大塚 輝雄															
前列右								今泉 春子							
前列左								山口千鶴子							

富山県新湊市クロタニコーポレーションより海舟像が6時間かけて東京へ到着

「勝海舟の銅像を建てる会」

趣 意 書

後 援 墨田区文化観光協会

勝 海舟（麟太郎・義邦）は、文政六年（一八二三）一月晦日に江戸、本所亀沢町（現・両国四丁目両国公園あたり）の男谷邸（父小吉・惟寅の実家）で生まれ、明治三十二年（一八九九）一月十九日（発喪は二十一日）赤坂の氷川邸において脳溢血で死去されました。

平成十一年（一九九九）には、没後百年を迎えましたが、平成十五年（二〇〇三）には生誕百八十年を向かえることになります。

海舟といえば、西郷隆盛との談判によって、英・仏の軍事介入による内乱を防止するとともに新政府軍の江戸城総攻撃を中止せしめ、無血開城をとりきめて、江戸市民を戦火から救ったことが特記されます。東京が近代日本の首都として機能し得たのは、城と江戸の町が殆ど戦禍を蒙らずに明治新政府に引き継がれたからであり、今日における東京発展の源流は実にこの江戸城無血開城にあったと言えます。

海舟は幕末から明治にかけての激動の時代に、世界のなかの日本の進路を洞察し、卓越した見識と思想に加えて、比類のない情熱と献身によって国事に奔走しつつ、内外における多くの指導的英傑と幅広く交わり、坂本龍馬などの人材を育成しました。海舟は日本の平和的軌道を敷設すると共に西郷隆盛、徳川慶喜の名誉回復を実現した開明的な政治家であり、また思想家でもありました。

イザヤ・ペンダサンの『日本人とユダヤ人』には、海舟こそ「その時代の第一級（勿論全地球上です）の人物で「これほどの人物は確かに、全世界を通じて一世紀に一人も出まい」とまで述べられております。

海舟は次のような歌を詠んでおります。

つねだにも 住ままくほしき隅田川
わが故郷となりけるかな

「明治元年十月・江戸から静岡へ移る時」

たちかへる わが古里の隅田川
昔忘れぬ 花の色かな

「明治五年春・静岡から江戸へ戻った時」

三囲の 社に続くひわれ田を
神はあはれと 見そなはさずや （ひでりの時の奉納歌）

「明治三十一年七月・病死六ヶ月前」

海舟は二十四年間墨田区で生育し、世界の中の日本と江戸文化をこよなく愛した江戸っ子であり、江戸・東京に縁のある人々にとっての誇りであるといえましょう。

西郷隆盛の銅像は上野公園にあり、また城山下や鹿児島空港近くにも建設されています。さらに沖永良部島にも、島民によって建設された南州神社に、上野の西郷像と同型のものが建てられております。海舟の弟子・坂本竜馬の銅像は、京都の円山公園、鹿児島の天保山公園、高知の桂浜にもあります。

勝 海舟の胸像は、能勢妙見（本所四丁目）社内にあります。全身の立像はありません。以上の経緯に鑑みて、生育の地にその銅像の建設が達成されますことを、心から念願する次第であります。銅像の建設によって墨田区は上野と好一对の史的名所となり、人々に平和と勇気、精神と活力の素晴らしさを発信する基地として機能し、文化の進展に寄与するものと確信しております。

なお、海舟の銅像建設後は、墨田区に寄贈いたします。

勝 海舟の銅像を建てる会

Homepage <http://www.katsu-kaisyu.net>

後 援 墨田区文化観光協会

<お問い合わせ>

e-mail info@katsu-kaisyu.net

墨田区文化観光協会内 Tel 03-5608-6951 Fax 03-5608-6406